HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	農業を志向する青年の行動と定着条件
Author(s)	園, 尚子
Citation	農業経営研究, 30, 159-175
Issue Date	2004-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36592
Type	departmental bulletin paper
File Information	30_159-176.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

農業を志向する青年の行動と定着条件

園　尚子

1．本論文の課題と事例の位置付け
　1）問題の所在と視点
　2）事例の位置付け
2．農業を志向する独身女性の属性・動向－新得町立レディースファームスクールを事例として－
　1）新得町の農業と新得町立レディースファームスクール
　2）スクール生の分析
　3）まとめ
3．農作業ヘルパーを経験する青年農業志向者の属性・動向－「富良野野菜ヘルパー」を事例として－
　1）富良野農業と富良野野菜ヘルパー
　2）野菜ヘルパー分析
　3）まとめ
4．農業法人に就職する青年農業志向者の属性・動向－上川町農事組合法人豊原生産組合を事例として－
　1）上川町農業と農事組合法人豊原生産組合
　2）豊原生産組合構成員・従業員分析
5．結論

1．本論文の課題と事例の位置付け

1）問題の所在と視点

経済・社会環境の変化から、日本の農村は過疎化と高齢化により農業労働力が不足し、担い手が足りない状態である。また、中山間地域などの条件不利地域では、担い手の不足により、コミュニティーの維持が危機的状況にある。農業の担い手の補充は農家あとつぎだけでは賄えない状況であり、新規参入者に注目が集

まるようになった。

昨今の日本農業は、農業法人の活躍から雇用型就農が始まっている。また、農業労働力の不足から、農作業の外部受託機関であるコントラクターや酪農ヘルパーが誕生し、非農家出身者は様々な形で農業に携わることができるようになった。

新規参入に関する既存研究においては、以上述べてきたような就農に至らないまでも農業に携わることができる仕事に就いた人々は、その後、新規参入に至ると想定し、期待してきた（註１）。しかし、新規参入者数は新規就農者数全体の中でも１割に満たず，以前，低いままで一つの就農ルートとして確立したとは言えない状況にある。

上記に列記した以外にも新規参入に関する既存研究では、新規参入が困難である要因を分析するために新規参入に至ったごく一握りの人々の足跡を事後的に辿って実態調査に及んできた。しかし、このような視点では新規参入を選択しなかった人々の理由が解明できない。よって、新規参入の前段階にいて様々な農業の仕事に携わる人々への研究が必要になる。

以上のような分析の視点から、本論文においては、農業経営への関与度合が異なる様々な農業の仕事から３事例を取り上げる。一つ目の事例は、農業研修生の事例として「新得町立レディースファームスクール」。二つ目の事例は、農作業ヘルパーの事例として「富良野野菜ヘルパー」。最後の事例は、農業法人の事例として「上川町農事組合法人豊原生産組合」を取り上げて、課題を検討していく。

２）事例の位置付け

図０－１は、農業に携わる様々な農業の仕事を農業経営への関与度合とその身分が農業経営の内部にあるか否かで表して、事例がどういった位置にあるのかをみたものである。縦が農業経営への関与度合を表し、関与度合が高くなるにつれて上がる。横は、その職業の身分が農業経営の内部にあるか否かを表している。新得町立レディースファームスクールは研修生を受け入れていることから、①の位置付けにあり、富良野野菜ヘルパーは新得よりも農業経営への関与度合が高まると考え、②の位置に置いている。上川町農事組合法人豊原生産組合は農業法人であることから、当法人従事者は経営の内部にあり、法人従業員は「従事者」にあたり、構成員は「経営者」にあたる。既存研究においては、新得や富良野のような農業経営への関与度合が低い農業の仕事（本論文では、農業に携わることができる様々な仕事を「農業のチャネル」と呼ぶ。）に就いていた人々は、個人経営として独立する方向に向かって、上位の農業のチャネルに向かうことが想定されてきた。よって、図の中の矢印はそれぞれの農業のチャネルを経て人々が向かうと想定される進路を表している。本論文においては、様々な農業のチャネルに就

きながら、新規参入を選択しない人々の動機や意向、その変化など内面における要因を追いつつも、彼らが辿る進路にも注目して課題に迫ってみたい。

2．農業を志向する独身女性の属性・動向－新得町立レディースファームスクールを事例として－

1）新得町の農業と新得町立レディースファームスクール

新得町は山間農業地域である。しかし、農業粗生産額では畜産の割合が7割を占め（註2）、生乳生産量と1戸当たりの農業所得では十勝平均を上回る（註3）。このように所得の高い農業を展開している本町であるが、農業後継者の確保割合は低く（註4）、担い手の補充に不安があった。

事例の新得町立レディースファームスクールは1996年に設立され、年間12～13名の若い独身女性を受け入れている。スクール生は「農業の担い手」となるように地元農家における実習を重ねながら生活し，研修期間の1年を他のスクール生とともに寮で過ごす。またスクール生は、農業の基礎的な知識を学ぶ講義、町内、十勝管内、管外における農場・農業関連施設の視察、実習畑で栽培した農産物の加工実習がそれぞれ月1回行われ、北海道農業や農業の基礎的な知識・農産物加工の技術を学んでいる。

2）スクール生の分析

表1－1は、1から7期生までのスクール修了後の動向をみたものである。スクール生は関東と近畿を中心とした都府県出身者が多くなっている（註5）が、修了生66名の内36.4%の24名が新得町内に残り17名が農業に従事している。また、道内の農業地域に移り住んだものは31.8%、21名おり、20名が農業に従事するなど、修了生の動向は北海道への定着が多くなっている。農業従事者は40名と全体の60.6%に達し、農業従事度合も高くなっている。

表1－2は、最も定着度合が高く農業従事者が多かった町内在住者の職業についてみたものである。新規参入者が1名を始め、酪農ヘルパー・農業法人従業員など様々な農業の仕事に就いていることが解る。また、農業法人従業員のうち1名が2003年の8月に町内に新規参入している。道内に定着し農業に従事している者は、主に農業法人従業員と農家の実習生、酪農ヘルパーに就いている。

つづいて、新得町内に在住しているスクール修了生と現役生（6・8期生）への聞き取りから、彼女達の経歴、動機、修了後の進路、今後の予定・意向をみていく（表1－3）。新得町内在住者も都府県出身者が多く、スクールにくる前には

高校や大学を卒業後に事務職を経験した人と様々なアルバイトを経験した人が多く来ていることが解る。主な応募理由は、北海道への憧れ・農的な暮らし・仕事職場への不満が多くなっており、高校卒業後にアルバイトを重ねてきている人には「自分探し」をあげていたのが特徴である。以上のように、スクール生は農業に対して不明瞭なイメージや目的を持って来ていることが解る。修了後は①実家に帰る、②農業実習生という進路を取る人が多く、②を経た後に様々な農業の仕事に就いている。スクール生は、実際に農作業を体験した感想に肉体的な苦痛をあげても、一様に農業に対し興味を示し「楽しかった」という感想を残している。修了後には当初の不明瞭な応募理由から変化し、農業への関心度合は高まり、具体的な農業の仕事に夢を膨らませる人もいる。

上記の表１－3 から抜粋してスクール生を詳細に分析してみる（表１－4)。１番と 18 番はＯＬ経験者で、職場の女性に対する偏見に不満を持っていた。１番は研修を重ねる中、自己裁量で行える農業に魅力を感じ、新規参入の希望を持つようになった。しかし、18 番は料理への興味・関心が湧いたと述べている。５番と 12 番は農作業経験を有して入学している。５番は酪農ヘルパーであるが、今後は有機農業を目指しヘルパーを辞めて様々な経験を積むことを望んでいる。また、12 番は農業以外の仕事は考えられないと延べながらも新規参入以外の農業の仕事を模索している。20 番は「やりたいこと」を探すために入学し、酪農に関心が持てたことから農業実習生を希望しているが、将来のことはわからないと述べている。以上の結果から、①類似した動機・経歴を有していても希望する進路は異なっている，②職業や居住地を変える意向・経歴を持ち、スクール修了生の進路が流動的である，③研修を重ねることで農業に対する関心が高まったが、新規参入以外の農業の仕事を積極的に選択している，このようなことが特徴として見ることができた。

３）まとめ

スクール修了生は農業従事度合が高いことがわかったが、その要因として新得町内には農業の様々な仕事が存在していることを指摘できる。また、スクール生は表１－4 から新規参入以外の農業の仕事を積極的に選択していたこともその要因としてあげられる。しかし、農業実習生は受入農家との相対取引であることから、不安定就労条件で働くことがあり、最低限社会保険の適用が必要であるだろう。また、スクール生の多様な意向に沿って、新得町が起業を応援するための支援制度を開設した（註６)。これはスクール生に「農的な暮らし」をあげる人が多く、新得町内ではグリーンツーリズムに取組む農家が多く（註７）その影響をスクール生が強く受けている（註８）ことから、スクール生の定着を促進する制度

として評価できる。また、少ないながらも新規参入を希望するスクール修了生が出てきていることが解った。〔5〕は，受入農家とスクール生の間に親密な関係が構築されており、当初、受入農家の意向はスクール生を町内のライフサイクルに組み入れることであったが、彼女達の農業に対する真剣な態度に感化され、考え方を変化させていることを指摘している。新得町には、2003年8月のスクール修了生の新規参入者を支援するに当たり、資金制度が開設されたばかりであるが、山寺の指摘から「リレー方式（註9）」の経営継承が可能であると推察される。

3．農作業ヘルパーを経験する青年農業志向者の属性・動向－「富良野野菜ヘルパー」を事例として－

1）富良野農業と富良野野菜ヘルパー

富良野市は早期から減反政策に取り掛かり、農業粗生産額の約7割は野菜部門が支えている（註10）。施設園芸が増えていることから、手作業を大量に必要とし、既存の常雇が高齢化を迎える中で新たな労働力を求めていた。富良野市はドラマ「北の国から」などの影響から北海道や富良野に憧れを持つライダー達が多く訪れ、旅費を稼ぐために農家の臨時労働力として働いていた。これに目をつけて、ＪＡ富良野が1996年に立ち上げたのが「富良野野菜ヘルパー」〔8〕であった。都市近郊で発刊されるアルバイト情報誌において、「18歳から35歳までの男女」約80名を募集している。ヘルパーの作業期間は4月から10月までで，時給は800円と市内の常雇の平均賃金700円より高く設定されている。作業内容は耕種部門の管理作業から収穫作業までである。ヘルパーは，全室個室の専用の寮が設置されており、そこで寝食を共にしながら生活している。

2）野菜ヘルパー分析

次に、富良野市に在住するヘルパー経験者の進路についてみていく（表2－1）。ＪＡふらのが把握している富良野市在住のヘルパー経験者は計30名（註11）いる。平均して年間約4名のヘルパーが富良野市に残っていることになる。彼らの進路は、①新規参入、②地元住民と結婚、③地元農業者と結婚、④農業フリーター（常雇）、⑤農業フリーター（全国を渡り歩く農作業アルバイト）（註12）、⑥その他の仕事が主である。表2－2でこれらのヘルパー経験者と現役ヘルパーの経歴、応募動機等を聞き取り調査の結果からみてゆく。富良野在住のヘルパー出身者も新得同様に都府県出身者が多く、男性は4名と少なかった。ヘルパーの前歴は高校卒業後に様々なアルバイトを経て応募する人が多くなっていた。主な動

機は北海道に住みたい、農業に興味がある、実家から離れたいなど農業に関して不明瞭なイメージで応募していることがわかる。農作業の感想は、一様に体力的な苦痛を訴えても、「楽しい」といったものが多かった。終了後の進路はヘルパーのリピーター、富良野市内で働く農業フリーター（常雇）や全国行脚的な農業フリーター、地元住民との結婚が主な進路となっており、新規参入を果たす人も目指す人も非常に少ないことが確認された。

それでは，以上の富良野市在住ヘルパー経験者の聞き取りを抜粋して、更に詳しく動機、進路、今後の意向についてみてゆく（表２－３）。聞き取り調査に応じてくれた人は、①主婦、②主婦（元農業フリーター）、③農業フリーター、④現役ヘルパーに分けることができ、それぞれから抜粋している。１・４・８番のように当初から農業に関心があって来ている人、７・14・15番のように一つの仕事として農業を検討している人など農業に対し比較的関心が高いことがわかる。回答者は全員、ヘルパーの作業を経験して「農業は楽しい」と回答しており、４・７・14 番のように新規参入を希望していた人もいるが、実際に農業の現場に触れて「農業はリスクが大きいので、自分には無理である」として断念している。他の回答者も同様の回答をしており、農業を個人経営で行うことが非常に難しいことを述べていた。しかし、２・４番のように自分で経営することは無理だが農業が好きなので常雇として働くことを希望している人や、５・７番のように趣味のスキーを実益として行うために常雇が便利であることを指摘する人もおり、農業フリーター（常雇）に対して積極的な位置付けをしていることが伺われる。ただし、６番は常雇として働く中で腰を壊し農作業以外の仕事に就くことを余儀なくされており、７番はこの点に関して非常に気を使っていると回答していた。新得同様に富良野の農業フリーター（常雇）も労働条件が整えられていない不安定就業であることは、今後、ヘルパー経験者の定着を考える上で重要な点であると思われる。

３）まとめ

富良野野菜ヘルパーに応募する人々の応募動機は新得町立レディースファームスクール同様に不明瞭な点が指摘できた。また、新得町と比較すると富良野市への定着の割合が低いことが指摘できる。この理由として、同じく新得町と富良野市を比較して検討すると、富良野市には農業に携わる仕事が少ない点が指摘できるだろう。実際、富良野市在住者は農業フリーターを積極的に選択している回答を得られた。

4．農業法人に就職する青年農業志向者の属性・動向－上川町農事組合法人豊原生産組合を事例として－

1）上川町農業と農事組合法人豊原生産組合

上川町は中山間地域であり、1戸当たりの経営耕地面積が小さく（註13）、農業専従者がいない農家が70%（1980年以降）に達するなど農業の担い手が脆弱化している地域である。しかし、大規模酪農法人を中心とした上川町農業支援システム（註14）が農地の集積・耕作等を行い、脆弱化した農業の担い手をカバーしている。よって、本事例の豊原生産組合の従事者はこれらの支援システムの活動に従事しており、その為、若い従業員・構成員を募集している。

農事組合法人豊原生産組合は1963年に設立された歴史の長い農業法人である。その長い歴史の中で、当組合は農地の所有を完全に法人に移したことから非農家出身者においても構成員になることが容易になった。加えて、農家構成員が全員脱退したことから、非農家出身者であった従業員が組合長となり、組合の制度が改正され、構成員条件のハードルが下げられてきた。例として、出資金額が一口千円、住居手当・住居の斡旋、配当金が高い、夫婦での参加は必要ない、労働時間が8時間になるように設定されているなど、農地・資金・配偶者を持たなくても加入することができるように整備されてきた。表3－1にあるように、当組合従事者は20代から50代までの単身者を含めた非農家出身者によってほぼ構成されており、出資金額には非常にばらつきがあり、妻の農業従事もパートとしての参加であって世帯を中心とした農業従事ではない。

2）豊原生産組合構成員・従業員分析

それでは、表3－2から当組合の従事者に応募動機と今後の意向をみていく。子供の頃からの夢が農業経営者になることや、新規参入に至った人、農業関係の学校に通った経験があるなど、当組合従事者は農業への関心度合が高いことがうかがわれる。1・3・5番のように給与が高い点から当組合を選んでいる人がおり、年齢的に転職が難しいことから中高年齢者や扶養家族を持っている人は定着の割合が高いと考えられる。しかし、8・10・11番のように独立して経営を行うことを希望する人、自給自足的な生活を考えている人、農業の別の仕事を考えている人がおり、多様な考え方を持っている人が含まれていることがわかった。また、10・11番は従業員に留まることを希望していた。

まとめとして、参入障壁が低い農業法人においても、多様な考え方を持つ人が存在し、従業員に留まることを希望する人もいた。

５．結論

新得町立レディースファームスクールは富良野野菜ヘルパーに比べ、農業経営への関与度合が低い農業のチャネルであったが、終了後の農業従事度合は新得町立レディースファームスクールの方が高かった。３事例では、農業のチャネルを農業経営への関与度合が高い方向へ進む人もいたが、大半は「滞留」することが明らかになった。これまで、低い位置にある農業のチャネルに携わっていた人は就農へ向かうことが想定されてきたが、実際には大半の人々がその場で「滞留」する現象が確認された。この要因としては、これらの農業のチャネルに従事する人々が農的暮らしや有機農業など農業を多様な事業や仕事が展開できる場と考え、模索していることにあった。よって、これらの人々には農業実習生や常雇という就労条件が不安定な仕事でさえ積極的に選択する傾向がみられた。このような多様な考え方は非農家出身者だけではなく、農家出身の新得の 12 番や富良野の５番，上川の 11 番においてもみられ、自家の農業経営や個人経営を望まず、他の農業の仕事を模索し選択していた。また，新得・富良野においてはほとんどの人が具体的な農業の仕事を見出すことができずにおり、その為、今後様々に居住地と職業を変える意向を持ち、１期生の聞き取りにおいては流動的な進路を辿っていることが明らかになっていた。

事例中には新規参入を志す人や農業の安定的な仕事を志望する人もいたが、情報が不足しているために農業法人や農業研修施設へのステップアップを図れないでいる人もいた。少ないながらも潜在的に新規参入者となる可能性のある人々はおり、彼らと就農を結びつける情報提供の整備が行われることが望まれる。

また、新得と富良野の比較から定着の割合を高めるためには様々な農業の仕事があることが有効であることが指摘できる。新得は酪農ヘルパー、乳牛検定員、農業法人従業員の仕事があり、富良野には農業フリーター以外にはあまりみられなかった。

このように、本論文が対象にしてきた人々は既存研究においては新規就農の予備軍とみられてきたが、就農以外の農業の仕事を積極的に選択し模索していることから彼らを新規参入の枠内では捉えることができない。彼らには「農業参入」という枠組みで括られることが望ましいと考える。さらに、近年見られる農村移住者を含めると「農村参入」という広い枠組みにしなければ、農業と農村に向かう人々を正確に捉えることはできないだろう。

（註）

（註１）〔１〕〔２〕は農業法人への就職が雇用型就農を可能にし、いずれは新規参入へステップアップすることを期待している。〔３〕において、新規参入者は有形資産と無形資産の同時追求という困難性があるので、酪農を例にあげて、農業実習生・酪農ヘルパーを経て両資産を得ることができる「就農階梯」が確立されることが必要であると指摘している。また，〔４〕では、農家以外の農業事業体で専従雇用者は「新規就農予備軍」として期待できるとして指摘されている。

（註２）十勝支庁の平均で耕種が 55%、畜産が 45%であるのに対して、新得町は耕種が 25%、畜産が 75%と、畜産の割合が高くなっており、乳用牛の割合は 34%と、新得町の農業の基幹になっている。

（註３）１頭当たりの生乳生産量は、北海道 4.23ｔ、十勝 4.37ｔ、新得町が 5.06ｔ（北海道農林水産統計年報）と高くなっている。また、新得町の１戸当たり農業所得は 13,064 千円と、十勝平均の 11,889 千円より約１高い。

（註４）新得町の同居後継者・他出あとつぎ（総農家）確保割合は各 19%、29%と北海道と十勝平均どちらからも低い数値になっている。

（註５）１～７期生までの 66 人中、道内出身者は６名と少なくなっている。

（註６）http://www.hokkai.or.jp/shintoku/参照。

（註７）『SHINTOKU 農村ホリデー研究会』は新得町役場や温泉旅館・グリーンツーリズムに取組む農家が立ち上げ、各農家が行う体験実習の内容が重ならないように調整している。果樹、搾乳、羊毛、そばが主であるが、１軒の酪農家がアイスクリーム作りを行っている場合、別の酪農家ではチーズ作りをメインにするなどそれぞれの個性を出すようにし、観光客が新得町のグリーンツーリズムを多数回ってもらえるように工夫している。

（註８）〔６〕参照。スクール（修了）生へのアンケートでは大規模専業化を進めるよりも農産物加工などの多角経営が農業を発展させると答える人が多かった。

（註９）〔７〕参照。リース農場事業を利用しながら、資産の譲渡までのタイムラグが少ない。

（註 10）1994 年以降、農業粗生産額の約７割を野菜が占めている。

（註 11）２名は住居が不明だったため表には記載していない。

（註 12）「農業フリーター」はＪＡふらの職員がヘルパー経験者で市内の常雇として働く人と沖縄・愛媛等の農作業の臨時被雇用者として働く全国行脚的なフリーターを指している。

（註 13）経営耕地面積が３ha 未満の農家が 1970 年以降過半数に達している。

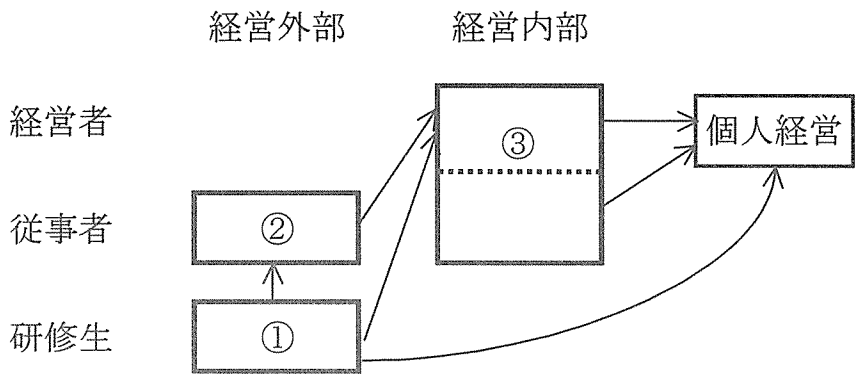
（註 14）（有）グリーンサポート。1998 年に設立される。農業開発公社・農地利

用調整委員会を通して農地の集積・耕作を行い、野菜の生産組合立ち上げ収量のアップに取組む。肉牛生産、新規就農希望者の研修にも取組む。

引用文献

〔1〕内山智裕「農外からの新規参入の定着過程に関する考察」『農業経済研究』第70巻第4号, 1999年
〔2〕江川章「新規参入の現状と課題」農業問題研究会1997年秋季大会報告
〔3〕小林信一「新規参入の状況と問題点」（佐伯尚美・生源寺真一編『酪農生産の基礎構造』農林統計協会）, 1995年
〔4〕松木洋一「新規農業参入者と担い手の社会的育成」『日本農林業の事業体分析』, 1992年
〔5〕山寺里子『「田舎暮らし」の若者にみる場所の認識形成・変化の過程－北海道新得町立レディースファームスクールを事例に－』　東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻広域システム科学系（人文地理）, 2003年
〔6〕相川良彦「農業目指す女性を支援する研修事業」『農林経済』2002年7月号
〔7〕内山智裕「酪農における経営継承システムの構築」（柳村俊介編『現代日本農業の継承問題－経営継承と地域農業－』日本経済評論社）, 2003年
〔8〕田中規子・柳村俊介「農協による農業雇用労働力供給システムの構築－JAふらのによる「農作業ヘルパー」制度をめぐって－」酪農学園大学紀要28(1), 2003年
〔9〕柳村俊介「非農家型経営継承システムにむけた課題」((基盤研究B)『国際的にみた我が国農業の経営継承方式の特質と将来方向』) 2001年3月、pp. 20-29。尚、豊原生産組合の研究はpp. 28-29

図０－１　　事例の位置付けの概念図



註１）①：新得町立レディースファームスクール，②富良野野菜ヘルパー，③上川町農事組合法人豊原生産組合

註２）→は、①～③を終了後に調査対象者が辿る進路.

表1-1　新得レディースファームスクール修了生の動向

1～7期生合計	修了者内訳	在住地							
		町内	割合	道内	割合	道外	割合	計	割合
	修了者数	24	36.4	21	31.8	21	31.8	66	100
	うち農業従事者数	17	25.8	20	30.3	3	4.5	40	60.6
	うち既婚者数	9 (2)	13.6	10 (9)	15.2	3 (3)	4.5	22 (14)	33.3 (21.2)

資料：新得役場（2003年４月作成）

註：（）の数字は農業後継者と結婚した人数.

表1-2　　スクール修了生町内在住者の内訳

職業	人数
新規参入	1
酪農ヘルパー	1
乳検検定員	1
町営育成牧場従業員	2
農業法人従業員	4
農家従業員	6
自家農業（後継者と結婚）	2
専業主婦	5
アルバイト	2
計	24

資料：新得町役場聞き取り調査より（2003年12月）

註）上記の進路は2003年4月時点の進路。

表1-3　新得レディースファームスクール生の経歴と進路希望

調査番号	期生	年齢	出身	前歴	主な応募理由	修了後	希望・予定
1	1	34	神奈川県	短大卒業後繊維会社事務５年、事務アルバイト２年。	職場・仕事への不満、やりたいこと模索中、北海道へのあこがれ・住みたい	実習生4年→実家→検定員	農業法人の従業員、夢は酪農家
2	3	27	群馬県笠懸町	大学卒業。	農的暮らしをしたい	共同学舎→ファームイン従業員	農的生活
3	4	32	千葉県	短大卒業後に保育士７年。	農的暮らしをしたい、年齢的に変わりたい	実習生→役場アルバイト→畜産試験場	夢は酪農家
4	4	30	東京	大学卒業後在宅福祉ヘルパー３年。	北海道へのあこがれ、職場・仕事への不満	実習生	農的生活
5	4	29	神奈川県	農業大学卒業。	農業が好き	酪農ヘルパー	農的生活（有機農法）
6	5	31	愛知県小牧市	短大卒業後銀行事務６年。	田舎暮らしがしたい、年齢的に変わりたい	検定員	模索中
7	5	29	大阪府	大学農学部卒業後製薬会社研究員。	農業が好き、職場・仕事への不満	実習生	酪農教育ファーム従業員、田舎暮らし
8	5	27	千葉県	高校卒業後、電力会社事務に６年勤務	北海道へのあこがれ、年齢的に変わりたい	観光牧場	模索中
9	6	36	大阪府	高校卒業後、歯科助手、運搬業者事務。	北海道へのあこがれ	実家に帰る	模索中
10	6	30	大阪府	短大卒業後、玩具会社事務他６年勤務。	北海道へのあこがれ、農業が好き	実家に帰る	実習生、模索中
11	6	30	大阪府	短大卒業後、クレジット会社事務６年。	北海道へのあこがれ、年齢的に変わりたい、農業が好き	実家に帰る	田舎暮らし、模索中
12	6	29	宮城県仙台市	農業短大卒業後ヤマギシ会他で実習。	農業が好き、田舎暮らしがしたい	？	農業に関連した仕事を模索中
13	6	29	札幌市	専門学校卒業後、看板製作所他多数勤務。	農業が好き、田舎暮らしがしたい	長野県果樹栽培農業法人の従業員	農的生活
14	6	28	神奈川県	高校卒業後、石油会社事務７年。	年齢的に変わりたい、農業が好き	実家に帰る	農業者と結婚
15	6	26	東京	高校卒業後、新聞配達他アルバイト。	農業が好き、人間関係	実家のあとつぎ	農的生活
16	6	23	札幌市	専門学校中退後、居酒屋他アルバイト。	自分に合うものがなかった	農業法人従業員	農的生活（有機農法）
17	6	21	鹿児島県指宿市	高校卒業。	農業が好き	実習生	夢は酪農家
18	6	26	大阪府	電線会社事務３年。	職場・仕事への不満	実家	模索中、料理を作る仕事
19	8	23	京都府	専門学校卒業後、栄養士２年。	北海道が好き、食材を作って料理したい、仕事への不満。	実習生	模索中、料理を作る仕事
20	8	21	神奈川県横浜市	高校卒業後、パン屋他アルバイト。	やりたいことを探していた．動物と農業に興味があった．	実習生	模索中、酪農の仕事

出展：1～18は［5］より作成。19・20は筆者の聞き取り調査（2003年12月）より作成．

表1-4　　新得町立レディースファームスクール聞き取り内容抜粋

調査番号	期生	年齢	出身	応募理由・スクールの感想・今後の意向
1	1	34	神奈川県	以前の職場は「女性は居れば良い」といった雰囲気で花嫁修業的な職場だった。他にやりたいことがあるのではないかと25歳に会社を辞めやりたいことを探していた。農業が念頭にあったわけではないが、力仕事で、存分に働けて、自分を必要としてくれる仕事に就きたかった。母がスクールの新聞記事を見つけてくれたのがきっかけで応募。体力があって動物が好きなので向いているかも知れないと思った。北海道で暮らせると言う「ミーハー的」な気持ちもあった。実習をやめてみて、自分は搾乳の仕事が好きだということがわかった。今の仕事は色々な農家をまわることはできるが、搾乳はできないので、また実習生になるか待遇のしっかりしている法人の従業員になろうと考えている。いずれは自分の牛を自分で育てて搾乳したいが、パートナーや場所探しなど実際の課題は多い。
18	6	26	大阪府	勤めていた会社は女性を見下す風潮があり、有給休暇も取らせてくれない職場で辞めたかった。人のいない遠くに行きたいと思い、広い牧草地に牛がぽつぽつというイメージを抱きながらインターネットで「酪農」「北海道」で検索したところ、スクールを見つけ、個室で講義があることが良いと思い応募。大阪に戻ってからのことは分からないが、新得でおいしい食材を食べたり、自分で料理を作ったりして食べることと料理が好きだということを再確認したので、料理を作る仕事もしてみたい。
5	4	29	神奈川県	農業大学を卒業後にスクールへ。農業実習で北海道、沖縄等で実習をし、就職活動は一般企業を考えたが、実習の楽しさを思い出し就職しないで実習するのもいいなと思うようになった。とくに北海道を希望していた訳ではないが、就農相談会で十勝に魅力を感じ、スクールは嫁対策ではないとはっきり言っていることや4軒の農家で研修できること、講義があるなどから魅力を感じた。野菜栽培や土いじりが好きなので畑作にしたかったが1年間実習できるので酪農コースにした。酪農ヘルパーはとりあえずお金が貯まるまで続けたい。将来は自給自足的に有機農法で野菜を作りたいと考えているが、その前にいろいろな場所へ行って色々な経験をしてみたい。
12	6	29	宮城県仙台市	小さい頃から田舎で暮らすこと、畑仕事、動物に接することが好きだった。農業短大卒業後、Y会の酪農を担当するが、実家に帰った後また酪農をやりたいと思い、知人に紹介してもらった十勝管内の酪農家で1年間実習をした。今度は住み込みではなく、色々な農家をまわれることを希望している時、卒業生に出会いスクールを紹介してもらった。今後については悩んでいるが、新得では人のつながりが出来たので良い仕事があればいたい。しかし、年を取っても実習生でいることはできないし、かといって新規就農を目指している訳でもない。ヘルパーでは満足できるかわからない。ただ農業以外の仕事は想像できない。北海道以外でもいいが、働きやすさなどの条件が揃えばどこでも行きたい。
20	8	21	神奈川県	大学受験に失敗して、色々なアルバイトを続けながら、自分のやりたいことを探していた．都会には自分のやりたいことはないと思い、動物に触れる仕事をしたいと思うようになった．緑がいっぱいで、人があまりいない、広々とした場所に行きたかった．スクールのことはテレビで見て知った．町の人がとても暖かくて自分の居場所があるような気がした．牛は好き．将来は牛の仕事に携わりたい．来年からは町内に残って実習生をしたい．先輩からは実習生は長く続けられないと聞いているが、今は先のことはわからない．

出展：1～18は〔5〕より作成。19・20は筆者の聞き取り調査（2003年13月）より作成．

表2-1　富良野在住野菜ヘルパー出身者

調査番号	期生	職業
1	1	新規参入
2	1	新規参入
3	1	農業フリーター
4	1	農業フリーター
5*	1	フリーター
6*	1	主婦
7	1	主婦
8*	1	主婦（元農業フリーター）
9	2	アグリプラン
10*	2	主婦（元農業フリーター）
11	2	農業フリーター
12	2	農業フリーター
13	2	主婦
14	2	トラック運転手
15*	2	主婦（元農業フリーター）
16	3	農業フリーター
17*	3	農業フリーター
18*	3	元農業フリーター
19	3	飲食店従業員
20	4	現役ヘルパー
21*	4	農業フリーター
22*	5	農業
23*	5	農業
24	6	農業研修生
25*	6	農業
26	7	現役ヘルパー
27	7	農業研修生
28*	7	農業

資料：ふらの農協での聞き取り調査（2003年）

註）「主婦」：農業と関係のない富良野在住者と結婚.

「農業」：農業後継者と結婚.

「＊」：調査に応じてくれた人.

表2-2　　富良野野菜ヘルパー分析

調査番号	期生	性別	年齢	出身	ヘルパー前歴	農業との関係	応募理由	終了後の進路と今後の予定
1	1	女性	32	札幌市	地元短大（秘書科）卒業後、生保の職員。	×	自給自足の生活に憧れ、第１次産業に就きたいと思っていたから。	ヘルパー仲間と徒歩旅行→富良野ＧＳ→地元農家と結婚
2	1～2	女性	26	神奈川県	地元進学校	×	北海道に憧れ、実家から離れて独立したいと思ったから。	酪農の農家・法人→農協の事務→別の事務職→地元の人と結婚
3	1～3	男性	36	長崎市	地元普通科高校卒業後に２年間菓子製造工場に勤務。10年間東京でフリーター生活。	△	バイト先の人間関係に距離を置きたい、北海道出身の友人の話から北海道へ住みたいと思うようになった。	ヘルパー仲間と結婚→地元長崎に戻る（フリーター生活）→富良野に移住
4	2	女性	29	埼玉県	地元普通科高校卒業後、アパレル会社で４年間勤務。おんねゆの常雇１年。	△	農業と農作業に興味があって、北海道で就農するつもりで来た。	常雇（おんねゆ）→富良野プリンスホテル（冬）→常雇（富良野）→ヘルパー仲間と結婚（アグリプラン）
5	2～4	女性	34	岡山県蒜山高原	地元普通科高校卒業後、正社員１年、フリーター３年。その後農機具メーカーに６年間正社員。	○	趣味のスキーを実益にできるように、北海道に住みたかった。	常雇（富良野）２軒→スキーインストラクター（冬）（繰り返す）
6	3～4	女性	24	東京	保専中退。	×	雪のあるところに住みたいと思って。	富良野ＧＳ→常雇（富良野）→体を壊す
7	3～5	男性	26	神奈川県	普通科高校卒業後、1年浪人。中標津で酪農実習	△	受験に失敗し、涼しい所に住んで、実家を離れたいと思った。	常雇（富良野）→スキー場（冬）（繰り返す）
8	4～5	女性	25	札幌市	普通科高校卒業後、工場の事務として勤務するが倒産。1年アルバイト。	×	職場が倒産したこと、もともと農作業をしてみたいと思っていた。	常雇（富良野）→愛媛みかん収獲（冬）
9	5	女性	26	埼玉県	商業高校卒業後、洋裁学校に洋服販売のアルバイトをしながら通う。	×	料理の素材がどのようにして出来るのか興味があった。	地元農家と結婚
10	5	女性	34	旭川市	農業高校卒業後、地元の花屋に勤務。	○	専業農家と結婚したい、水稲以外の農業を見てみたいと思った。	地元農家と結婚
11	6	女性	30	埼玉県	普通科高校卒業後、自動車の会社に勤務。服飾学校に通う。	×	服飾でいい仕事が見つからなかった。北海道に少し住んでみたい。	地元農家と結婚
12	7	女性	26	札幌市	地元の４大卒業後、流通の会社に勤務。旅に出る。	×	農村地帯の人たちの人柄に惹かれて。	地元農家と結婚
13	7～8	女性	23	大阪府	地元の４大（福祉科）卒業後、診療所アルバイト。	△	田舎が好きで、農業に興味があった。実家を離れたい。	〈予定〉大阪に帰る
14	8	男性	23	大阪府	大阪で育ったが旭川大学卒業。	×	農業法人の就職を希望していたが、体験して決めようと思った。	〈予定〉就職する
15	8	男性	33	東京	埼玉で育ち、埼玉の工業高校卒業後、自動車部品の設計技師。	×	職場の環境が辛く、退職して別のことにチャレンジしたいと思った。	〈予定〉地元に帰るか、就職する

資料：聞き取り調査より作成（2003年）
註）「農業との関係」：「○」は、実家が農家の人．「△」は、祖父母の家が農家である人．「×」は、親族に農業関係者がいない人．

表2-3　富良野野菜ヘルパー聞き取り内容抜粋

調査番号	期生	職業	性別	年齢	出身	応募理由（詳細）と今後について
2	1～2	主婦（元農業フリーター）	女性	26	神奈川県	進学校卒業後、ヘルパーに応募。北海道へのあこがれ、実家から離れたい、親に迷惑を掛けたくない、大学に行きたくない、勉強以外のことをしてみたいと思っていたことがきっかけ。北海道で暮らすために様々な市町村に電話していたところ花嫁対策ではなかった富良野に決めた。事務作業をしていると農業をやりたくなる。
4	2	主婦（元農業フリーター）	女性	29	埼玉県	アパレル会社に4年勤める。高校選択時から農業に興味があって迷っていた。あまり年を取ったら思い切ったことが出来ないので退職して北海道へ来た。故郷に戻る気持ちはなく、北海道に住んで新規参入するつもりで来た。農業はリスクが大きいから自分にはムリだと思う．でも農作業が好きなので子供が手を離れたら常雇をしたいと思っている。
5	2～4	主婦（元農業フリーター）	女性	34	岡山県蒜山高原	実家は酪農家．農機具メーカーで正社員として勤めるが，趣味のスキーを実益に変えた生活をしたいと思い、北海道が思い浮んだ．年齢もまだ若く、親も元気で子供もいなかったので北海道へ移り住んだ。ヘルパー・常雇は、スキーを第1に考えた自分の生活と合っている．いつかは実家を継がなければならないが、まだ戻るつもりはない．誰かに何かあったらその時にまた考え直そうと思っている。
6	3～4	農業フリーター	女性	24	東京八王子市	保育専門学校に通ったが学校が合わなくて退学。保母になりたかったが断念した．雪のあるところに住みたかったので担い手センターから留辺蘂の農業実習生を紹介してもらった。友人がＪＡ富良野に勤め、ヘルパーの仕事を紹介してくれた。常雇をしていたが腰を壊してしまったので、もう農作業は出来ないが、今後も北海道で働きたい。
7	3～5	農業フリーター	男性	26	神奈川県	受験に失敗し、前から実家を離れて涼しい所に住みたいと思っていたので、中標津農協の農業実習生に応募した。富良野は給料や休みが多く、畑作だったので応募した。常雇として働き、仕事はだいたいのことを任されている。冬は好きなスキー場の仕事をしている．絶対に北海道という考えではないが、北海道にはずっと居たい。新規参入も考えているが，安定的な常雇で働いていたいので、体調には気を付けている。
8	4～5	農業フリーター	女性	25	札幌市	働いていた会社が倒産し、前から農作業をしてみたいと思っていてのでヘルパーに応募した。農業を一生の仕事には考えていない。農業をやるのであれば富良野でなくてもいいと思っている。これからみかん農家に行こうと思っているが、先のことは考えていない。もし札幌でいい仕事があれば農業以外のことをするかもしれない。動かすお金が大きく、リスクが大きいので農業で独立は考えられない。
14	8	ヘルパー	男性	23	旭川市	就職活動中に農業法人合同説明会に出席。農業法人に興味があったがいきなり農作業ができるかどうか不安だったので、ヘルパーに応募。来年は実家に帰って就職活動をしようと思っている。何でも選ばずにやってみようという気になっている。
15	8	ヘルパー	男性	33	東京	自動車部品製造会社の設計技師になるが、もともと好きな仕事ではないのと厳しい労働条件により考え直し、やったことのないことに挑戦したいと思い、ヘルパーに応募。農業を現実に自分が出来るかどうか判断するために来た。もし難しいようであれば地元に帰って就職する。

資料：聞き取り調査より作成（2003年）

表3-1　豊原生産組合の概要（2000年10月）

	資格	年齢	勤続年数	前職	出身地	農家出身者	妻の職業	出資金（千円）
1	構成員、組合長	43	9	スーパーマーケット職員	千葉県	○	老人ホーム職員	3520
2	構成員、前組合長	53	24	市民生協職員	北海道幌延町	×	豊原・パート	4120
3	構成員、理事	44	6	タクシー運転手	北海道足寄町	×	豊原・パート	1235
4	構成員、理事	33	5	薬品メーカー職員	福島県	×	無職	430
5	構成員、監事	41	11	水道配管工	北海道上川町	×	コンビニ・パート	1775
6	構成員	46	23	酪農経営	北海道足寄町	○	（独身）	3520
7	構成員	37	14	ホテルの調理員	北海道上川町	×	（独身）	2000
8	構成員	29	2	大学院生	北海道札幌市	×	（独身）	100
9	従業員	35	0.5	酪農法人従業員	北海道小樽市	×	無職	
10	従業員	31	4	肉牛牧場実習生	愛知県	×	（独身）	
11	従業員	29	4	新規学卒	北海道中札内村	○	無職	
12	従業員	29	1	会社員	島根県	×	豊原・パート	

資料：〔9〕を一部変えて表示。

表３－２　　豊原生産組合構成員・従業員

調査番号	勤続年数	資格	年齢	主な応募理由・今後の意向
1	9	構成員、組合長	43	実家が農家で将来は肉牛農家になりたいと思っていた．勤めていた会社が傾いたのを機に就農を考えたが、前組合長と出会い当組合に興味を持ち入る．
2	24	構成員、前組合長	53	もともと農業に関心があった．それまでの仕事に嫌気が差しており、上川町農協の職員から強く勧められて入る．
3	6	構成員、理事	44	それまでの仕事は給料が安く苦労していた．親が当組合の構成員で前組合長が妻の親戚だったことから紹介され入る．
4	5	構成員、理事	33	前から動物に興味があった。動物薬のセールスマンをしていた時，当組合は顧客だった。会社は上司の命令で動かなければならないが、当組合は自分が良いと思うことを実現できる。その分責任は重くなるが面白い所だと思った。
5	11	構成員、監事	41	子供の頃親戚の酪農家に遊びに行っていた．当組合の誘いがあって、別の仕事をしながら、バイト程度に作業をしている間に農業に興味を持った．また、給料がそれまでの仕事よりも高かった．
6	23	構成員	46	子供の頃から酪農に興味があり小さな牧場を経営したが、設備投資がネックとなり、以前から誘いのあった豊原に入ることにした．
7	14	構成員	37	父の進めで農業の専門学校に入学する．実習を重ねる中で酪農に興味が強くなり、人工授精に興味が湧いてきた．在学中に前組合長に誘われて入る．
8	2	構成員	29	遺伝子研究をしていて博士課程に入ったが、一生研究職で良いのか疑問を持った。農業はよくも悪くも自分で決め、その結果が自分に返ってくる。担い手センターで当組合長に誘われ、グリーンウェーブで働きながら搾乳をしていた。将来は酪農で独立したいと思っている。
9	0.5	従業員	35	病院の事務をしていたが、自分の力で結果の出る仕事をしたいと思い転職を考える。土別の農業生産組合に就職するが、従業員として使われるだけだったので嫌気が差し、担い手センターに当組合を紹介された。
10	4	従業員	31	自衛隊を除隊し旅に出てから、自分で牧場を持ちたいと思うようになり、様々な酪農・畜産の牧場を渡り歩く．上川町の牧場で働いた時に当組合と顔見知りだったので入る。今は、牛などを飼って、野菜を作り自給自足のような生活をしたいと思っているが、現在の時点で今後のことはわからない。
11	4	従業員	29	実家は酪農家で小さい時から触れてきたので、他の仕事に就く気はない。アメリカで酪農実習をした後、当組合の従業員だった妻に紹介されて入ったが、今後も構成員になるつもりはない。将来のことはまだわからないが、やりたいことをやりつつも自分に付加価値を付けてゆきたいと思っている。

資料：2003年10月聞き取り調査より作成．